

## 部屋

僕の手が届かぬ場所へ  
その声の哀しさ

哀しさ、と  
君はそれを理解できない

僕の立つこの部屋の広さを  
戻り、振り向く

みずから見出すことを  
予測することの幻滅と幻影に沈める

それは胸でも、掌でもない  
君が差し出すそれは、ただの「時間」だろう

扉を開き  
戸外の大気に融かされるがまま  
ああ、そしてこの胸の奥に射し込み、拡がるにまかせる陽光よ  
お前の、その 掌こそ  
・・・僕の心

空間とは何？  
それは君の世界を形にするものですか？

あの<sup>このま</sup>木間から洩れるものを  
流れに導き、ちりばめること

おお、間接的に君が創造した世界よ  
それを迷路のように楽しんでいればいい

心の中で呟くことなど 無感覚  
大気に融け込んだ僕自身に包まれる そのことを

遥かに遠いようにみえたものが  
いま、この胸に沁み入り、拡がっている

僕自身であることの      その意味を体現する  
僕自身であることの・・・同時に  
何ものにも妨げられぬ・・・同時に  
融合体であることの      その意味を

君のその、ふるえる指をくれるなら  
君自身から、かすかに融け出そうとしている・・・その指を

僕の手が届かぬ場所へ  
その声の哀しさ

その胸の奥の  
君自身の気付いていない広い部屋へ  
戻ろう・・・

(2004.1.1)